

別府大学 司書課程 News Letter



真理はわれらを自由にする

第7号

司書課程は「わたしの夢、ここから始まる。」をキャッチコピーに司書を目指す全ての学生の夢を応援します。



2021年3月に附属図書館1Fをリニューアルしました

☆司書課程ってこんなトコ!!

別府大学の司書課程では、発展し続ける情報化社会において図書館を舞台にユーザー目線で活躍できる司書を養成します。また、学習を通じて通常の大学生活では得られない人間関係を築き、有意義な学生生活を支援すると共に、将来の糧となる学びを提供します。



2020年度卒業生と

1. | 司書の仕事とは？

「司書」とは、資料や情報を提供することで図書館の利用者の要求に応える情報専門職です。「情報専門職」とは、利用者の要求に合った資料や情報を「収集」し、いついかなる要求にも応えることができるようにそれらの資料や情報を「保存」し、利用者に適した情報を「提供」する職業です。

情報専門職には、情報を提供することで利用者の要求に応えるという意味で、司書以外にも医療従事者や接客業、販売業などあらゆる業種が含まれます。特に、司書は、昨今の情報通信環境の発達による情報過多の社会において、信ぴょう性が高く、利用者に適した情報を提供するプロの情報専門職と言えます。

別府大学の司書養成の特色は、単に資格取得のための授業ではなく、図書館を利用するユーザー目線で考えることができる司書を養成することです。図書館には、読書や学習の用途のみではなく、様々な事情を抱えた利用者が様々な情報を求めて訪れます。そんな様々な利用者に寄り添うことのできる知識や技術、態度を学ぶことは、他業種に就職したとしても必ず糧になることでしょう。

2. | 司書課程で学べることは？

司書の科目には、図書館学と図書館情報学があります。

「図書館学」とは、図書館の司書・資料・施設について考える学問です。司書の具体的な業務の解説に留まらず、これからの情報社会においてどのような司書が必要か、無数にある図書館資料の収集・保存・提供の方法とは、どのような利用者にも必要とされる施設とは何かなど図書館に関連する様々な事象について考えます。

一方、「図書館情報学」とは、図書館が扱う情報について考える学問です。図書館が扱う情報には、本や雑誌、新聞などの文字メディアのみではなく、音楽や映像、画像など多岐にわたります。これらの情報は、今やインターネットを介して誰でもどこでもいつでも入手することができます。そのため、図書館についてのみ考えるのではなく、あらゆる情報サービス機関で起きている事象から図書館の存在意義について考えます。

図書館を内（図書館学）と外（図書館情報学）から見つめることで、利用者にとってより良い司書とはどのような存在かを考えていきます。これにより、物事を多面的に捉え、考える力が養われることでしょう。



学年・学部・学科の垣根を越えた交流

3. | 人間関係の構築

司書課程は、2年次より履修可能となります。学部や学科・学年を超えて履修可能であるため、同じ教室に普段接点のない学生が集まります。3年次より演習科目が始まり、グループワークやディスカッションなどアクティブラーニングを通じて、学生らが密にコミュニケーションを取り、課題をクリアしていきます。教員が仲介役となり、学生同士の間人間関係が構築されていきます。これは、サークルやクラブ活動同様に、同じ目標を共にする同志のような関係です。

司書課程では、年に一度、附属図書館との共催で図書館見学ツアーを開催しています。この企画は、普段の授業で知識としてのみ得ている図書館の現状を実際に見学することで、より深く図書館について理解することを目的としています。主に県外の図書館を見学するため、丸一日かけて行われます。参加は、学生のみではなく、教職員や他学科の教員、非常勤講師など自由参加となっています。そのため、図書館に関する学習のみならず、移動中や見学中、自由時間などの時間を共に過ごし、普段の大学生活にはない学生や教員という立場を超えたコミュニケーションが生まれ、新しい人間関係を築くことができます。

別府大学では、昭和36年から59年間にわたり司書を養成しています。別府大学の司書課程及び司書講習において司書資格を取得した人数は、有に1万人を超えています。そのため、全国の様々な図書館において、別府大学で司書資格を取得した多くの人たちが働いています。近隣の図書館や旅行で訪れた先の図書館、就職先の図書館では、きっと「別府大学」を共通項に多くの先輩たちとの縁に恵まれることでしょう。



2019年度図書館見学ツアー

司書課程履修の先輩から

現 別府大学附属図書館司書（丸善雄松堂所属） 和田 由莉花さん（2019年度 文学部 史学・文化財学科 卒業）

「司書になるまで、なってから」

Q. 司書を目指したきっかけ

A. ありきたりな理由ですが、本が好きだからです。よくある話ですが、幼い頃は体が弱く、それに加えて人見知りも激しかったため、人と関わるよりも曾祖父母がくれた本を読む方が好きでした。

小学校に入学してからは図書館司書の先生に懐き、幼心に先生と同じ司書になりたいと思っていたのをよく覚えています。

Q. 司書課程の思い出

A. 授業の履修登録が苦手で、同学年の人と一緒に取れなかった記憶があります。私は複数の資格取得を目指し履修しないといけないものが多くありました。それで、順番がぐちゃぐちゃになっていました。その影響で、先生方にはご迷惑をおかけしました。1つ下の学年に混じて受講する事が多く、幼い頃の人見知りよりはマシンになったかと思っているのですが、それでも苦手なものは苦手で、グループワークの際には本当にご迷惑をおかけしました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。すみませんでした。

複数の資格取得を目指している方、履修登録が苦手な方は、ご友人と話し合っただけだと良いと思います。友人と固まっているのはよろしくないのですが、1人で受けるのとは安心感が違います。

授業自体は面白い・楽しいといった印象があります。何気なく見ていた請求記号も意味が解れば本を探す時間を大幅に削減できます。レファレンスの練習では、如何に相手を困らせるかに全力を出した記憶があります。楽しかったです。

Q. 現在の職場（丸善雄松堂所属、附属図書館外向）に就職したきっかけ

A. 就活中にキャリアセンターの方からお電話をいただいて、求人を知り応募しました。

授業でも取り扱うと思うのですが、図書館司書は、基本的に外部委託が主流で、司書資格を持つ人に対しての求人は少ないのが現状です。そのため、最初は司書を目指さず、適当にどこかの事務員にもなろうと就活をしていました。しかし、お電話をいただいた求人のタイミングが良かったので、これも何かのご縁と

思い応募しました。

別府大学を希望したのですが、定員の関係もあり、最初は別府大学の医学部図書館に配属されました。片道だけで2時間ちょっとの通勤状況でした。自分の憧れた職業で自分が選んだ道なので、然程苦にはならなかったです。しかし、同じ丸善所属の先輩方には「大変やなあ」と心配され、別府大学に異動できるように掛け合ってくれ、今年の4月から別府大学勤務になりました。

別府大学勤務になってからも先輩方は穏やかな方が多く、人に恵まれているなど実感しています。ただ、母校所属なので、先生方に挨拶していいのかわからない（別府大学勤務になった事を）、どのタイミングでお会いすればいいのかわかりません。それが最近の悩みです。

Q. 実際に司書として働いてみて感じたこと

A. コミュニケーション能力って大事ですね、本当に。利用者さんから本の所在を尋ねられた時、利用方法を聞かれた時、1年生のガイダンスをする時、終わった後で1人反省会しています。あの説明でよかったのか、もっとわかりやすく説明できたのではないかと、理解してもらえただろうかと、逆に混乱させたのではないかと等々、延々と考えてしまいます。

自分がわかっている事を人に説明する事は思っているより大変です。適切な言葉がすぐには出ず、利用者さんを待たせてしまっただけで申し訳なく思います。

図書館司書は、人と接する仕事なのでコミュニケーション能力が大事だとつくづく思いました。相手が何を求めているのかわかるためには対話が必要で、対話にはコミュニケーション能力が必須。それがなかなかどうして実践するのは難しく、実践してもこれで合っているのかわからず、定期的に落ち込みます。落ち込んで、最終的に1人反省会で司書に向いていないのでは…?と思う事があります。しかし、ご案内した利用者さんに探していた本を渡せた時には、次も見つけ出そうと思ってやる気になるので、とてもお手軽に復活します。

友人に話すと意外だと言われるのですが、司書は力仕事です。本の移動も配架も書架整理も力仕事です。紙の束は重いです。

総合的に言えるのは司書にはコミュニケーション能力と筋力が必要だということです。個人的意見ですが。

司書課程履修の先輩から

現 大分大学附属図書館司書（丸善雄松堂所属） 和田 一花さん（2020年度 文学部 国際言語・文化学科 卒業）

『司書課程で築いた知識と人間関係』

私が司書課程を履修して良かったことは、知識と人間関係を築くことができたことです。

まずは、知識の面です。私の働く図書館では、目録担当とサービス担当で分かれています。目録担当は、目録や請求記号を作成します。三年生は佐藤先生の講義でしているのではないのでしょうか。その他に、貸出用バーコードやタトルテープを付ける作業も行なっています。

私はサービス担当です。貸出・返却処理の他、レファレンスやILLといったカウンター業務を行なっています。講義では学ばないILLの仕事や排架場所、貸出等図書館独自のルールがあり、今でも学ぶことはたくさんあります。

一方で、働き始める前は「分類番号を暗記しなければ」と思っていました。私の働く図書館ではカウンターというパソコンがある状況で尋ねられるため、そこまで身構えなくても大丈夫です。

ここまで読んで、「もしかして、カウンター業務って、司書課程で学ばなくてもできるんじゃない？」って思った人がいるのではないのでしょうか。

ここで質問です。「レファレンス」は分かりましたか？「ILL」は分かりましたか？「目録」「請求記号」「タトルテープ」は分かりましたか？

説明が無くても意味が分かるのは、司書課程で基礎を学ぶことができています。接客がメインの仕事であり、勤務先で業務内容を学ぶとはいえ、「レファレンス」や「ILL」のことを改めて説明されることはありません。それらを知っていることが前提だからです。CiNiiや国立国会図書館デジタルコレクションの使い方を学びますが、ILL

業務ではよく使います。

そもそも、皆さんが図書館に勤務する際、何を担当するかは分かりません。目録担当になるかもしれないし、カウンター業務も目録もオールマイティーに担当することになる人もいるかもしれません。基礎も演習も学ぶことができることが、司書課程の良い点です。折角なので、カウンター担当になっても目録担当になっても大丈夫なように、司書課程で満遍なく知識を身につけておいてください。

また、図書館で働かなくとも役に立つ知識も身につきます。最たる例は、請求記号の見方です。図書館を利用するにあたって役立ちます。そして、CiNii。こちらは、レポート、特に卒論を書くときに役立ちます。司書になろうか揺れている方、そこまで本気じゃないという方も、学んで損はありません。

次に人間関係です。「司書課程を受ける人」との繋がりができます。同じ課程を共にするという事は、同じ目標や好きなものを共有しているということ。敵ではなく仲間です。わからないことや困ったことがあれば支え合ってください。

そんな必要は無いと思う人、人と関わることが苦手な人もいます。しかし、図書館は、同僚、利用者、他の図書館と、繋がりで構成されています。それは、どんな仕事でも一緒です。目標や好きなものを共有しているということは、比較的交流するハードルが低いと思います。人とコミュニケーションをとる練習場と思って繋がってみてください。

以上の2点が、私が感じた司書課程を履修して良かった点です。何が役立つか、メリットになるかは、人それぞれです。しかし、それを考えるためには、学ばなければ取捨選択もできません。折角の機会ですので、皆さんも存分に学んでください。

別府大学司書課程の あゆみと現状

工藤 邦彦（別府大学 文学部 司書課程）

別府大学では、図書館で働く専門職である司書養成の一環として、大分県下で唯一の司書課程を設置しています。司書課程では、1961年の開講以来、これまで約3,700人の司書有資格者を社会に送り出してきました。

司書の養成にあたっては、現在の高度情報化社会において多様化する情報資源・技術を反映した図書館奉仕・情報サービスの提供に主眼を置いた先進的な実学教育を実践しています。

司書

昨今の厳しい雇用情勢にも関わらず、司書資格を取得した学生の多くが県内・外の図書館等で勤務しており、情報専門職＝司書として図書館運営の現場を支えています。

2012年4月から、図書館法施行規則の一部を改正する省令が施行されたことを受け、司書資格取得に必要な科目に関するカリキュラムの変更を行いました。表1のとおり、図書館情報学に関わる基礎科目や図書館サービス・情報資源に関する科目、および選択科目（計24単位）を履修することで、司書資格の取得ができます。本学では図書館サービス特論や図書館総合演習において、電子書籍制作・読み聞かせ・ブックトークを行うなど、特色ある授業を数多く展開しています。

司書教諭

教育課程の展開に寄与し、児童・生徒の健全な教養の育成と読書活動、資料活用を目的とした学校図書館の運営に従事する司書教諭の資格取得も可能です（表2）。取得にあたっては、教職課程の履修が必要となります。

表1 本学における司書資格取得に向けた開講科目一覧

区分	科目	単位	
必修科目	基礎科目	生涯学習概論（生涯学習論Ⅰ）	2
		図書館概論	2
		図書館情報技術論	2
		図書館制度・経営論	2
	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2
		情報サービス論	2
		児童サービス論	2
		情報サービス演習Ⅰ（情報検索）	1
		情報サービス演習Ⅱ（レファレンス）	1
		図書館情報資源概論	2
図書館情報資源に関する科目	情報資源組織論	2	
	情報資源組織演習Ⅰ（目録）	1	
	情報資源組織演習Ⅱ（分類）	1	
	図書館基礎特論（アーカイブズ特論）	1	
選択科目	図書館サービス特論（児童サービス特論）	1	
	図書館情報資源特論（歴史資料特論）	1	
	図書館総合演習（電子書籍制作・現代図書館論）	1	

表2 司書教諭資格取得に必要な科目一覧

必修科目	単位
学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成 相当科目 司書に関する科目「情報資源組織論」及び「図書館情報資源概論」と共通 （※2科目両方の取得が必要です。）	4
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2